

活動報告書

報告者氏名: 押塚 雄史 所属: 千葉県立東金特別支援学校 記録日: 2023年3月1日

キーワード: 場面緘黙、コミュニケーション

【対象児の情報】

・学年

高等部3年男子生徒

・障害名

知的障害、場面緘黙

・障害と困難の内容

場面緘黙により会話によるコミュニケーションは難しいが、友達とやりとりしたい気持ちをもっている

【活動目的】

・当初のねらい

- ① 毎日クラスの友達全員に話しかけ、やりとりの機会を増やす。
- ② 好きなこと、得意なことを校内で紹介できる機会の設定。
- ③ 文章でのやりとりの経験を増やすことによる文章の量・質の変化を追う。

・実施期間

2022年4月～2023年3月

・実施者

押塚 雄史(担任)

・実施者と対象児の関係

通級の担当教員

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象生徒の事前の状況

- ・場面緘黙で、学校では言葉を発さない。
- ・友達と関わることは好きで、友達が音楽や動画を観ている場面に一緒に加わって楽しんでいる。

学習面

- ・小学校3年生程度の読み書きができる。
- ・絵も得意で、自分でマンガを描き周りに読んでもらうことを楽しみにしている。

言語、コミュニケーション面

- ・学校ではジェスチャー、筆談でコミュニケーションをとる。
- ・自分から筆談で話しかけることはない。
- ・周りから言葉をかけられるとジェスチャーや筆談で応じる。
- ・発表場面では本人が原稿を書き、友達が代読することが多い。
- ・クラスの他の友達とも関わってみたいがきっかけを見つけられずにいる様子が見られる。

行動面

- ・日常生活面は自立している。
- ・作業能力は高く、1時間程度集中して仕事ができる。

その他

- ・アレクサや Pepper に興味があり、自分で操作したいと思っている(やらないが)

・活動の具体的内容

① 毎日クラスの友達全員に話しかけ、やりとりの機会を増やす 6~7月の1ヶ月間

- ・自分の好きなことを一方的に伝えるのではなく、相手が興味を引くような質問をする、相手からの投げかけにどう答えるか、などクラス全体で取り組んだ。

- ・友達と関りをもちたいと思っているが、きっかけをつかむことができずにいる、という共通の課題や願いのある生徒がクラスに複数在籍している為、クラス全員で「毎日友達に話しかけよう」に取り組む。

- ・4月当初、自分から友達に話しかける姿は全く見られなかった本生徒であるが、1カ月の取り組み終了後も、仲良くなった友達には自分から話しかけたり、自分の描いた絵を見せたりする様子が見られるようになっていった。

② 好きなこと、得意なことを校内で紹介できる機会の設定。

- ・校内の防災委員会に所属している。本人が得意なイラストやマンガを描くこと等を通して校内で活躍の場をみつけていく。

③ 文章でのやりとりの経験を増やすことによる文章の量・質の変化を追う。

- ・筆談やジェスチャーで気持ちを伝えているので、筆談や日記に書いた文章の量や質を比較する。

- ・やりとりする機会が増えれば、必然的に文章の内容も増えていくと考える。

- ・やりとりが増えるように①を設定し、相手の興味に沿った内容でやりとりができるようにする。

・対象児(群)の事後の変化

- ・元々友達とやりとりをしたい気持ちがあったがきっかけを作ることができなかった本生徒にとって、「毎日友達に話しかける」という期間を設定したことは、自分から話しかける理由となったようで、やりとりを楽しんでいる様子が見られた。

- ・初めは「モンハンやりました」「ポケモン買います」など、自分の好きなことを発信し、相手が反応に困りなかなかやりとりが進まない様子が見られた。

- ・友達から「同じゲームが好きだから話そう」と言われると喜んでやりとりしていたが、共通の趣味をもたない友達から

「質問してくれたら答えやすい」「違う話がしたい」などと言われ、少しずつ相手に合わせることができるようになっていった。

・絵が好きで自分の好きなものを描いた絵をよく見せていたが、友達とのやりとりをきっかけに「〇〇を描いて」などと言われ、それに答える様子も出てきた。

・修学旅行のしおり作りでは友達から「A君は絵が上手だから挿絵を描いてよ」と言われ、旅行先について調べてキャラクターや建造物の絵を描いた。

・一方方向のやりとりから、相手の要求や気持ちをくんでのやりとりができるようになっていった。

・音声を発してくれるアプリでのやりとりにも取り組んだが、本人はこれまで通りのジェスチャーや筆談でのやりとりを希望し、定着はしなかった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

・全員で同じことに取り組んだことで、初めは設定されたやりとりではあったが、Aさんにとってのやりとりのきっかけを作ることができたのではないかと。

・やりとりを重ねる中で、自分の思いだけを伝えるのではなく、相手に合わせることや相手の要求に答えることができるようになっていったのではないかと。

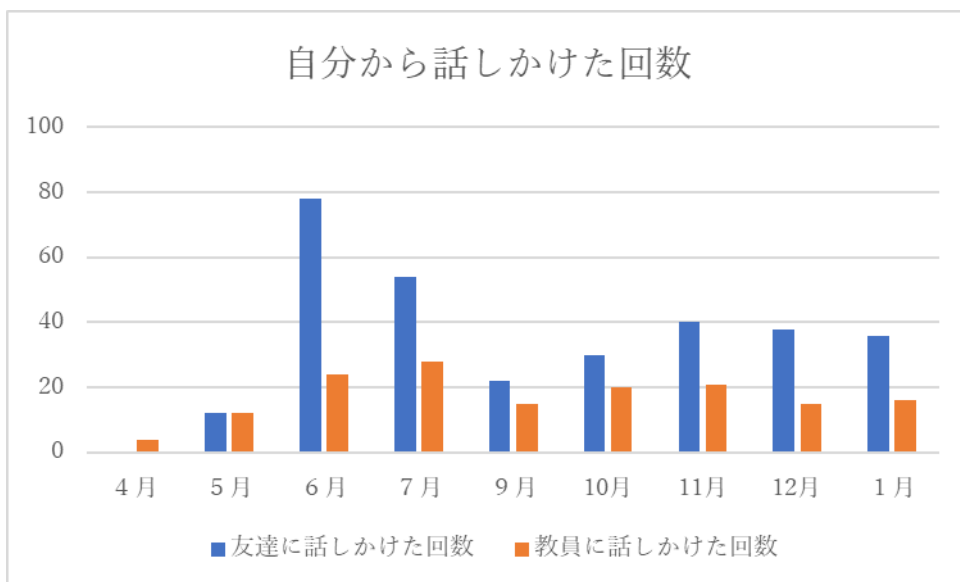
・友達とのやりとりの中で、文章力や細かな気持ちを伝えることの必要性を学んでいったのではないかと。

・エビデンス(具体的数値など)

・①について

・6~7月の1か月間は、「毎日友達と話す」に取り組んだため実習期間により人数が少なかったこともあるがほとんど毎日話しかけることができた。

・9月以降は取り組みとしては行っていないが、仲良くなった友達に自分から話しかけたり絵を見せたりしていた。



・2学期からは「毎日友達と話す」という取り組みは行っていないが、4月や5月と比べても「取り組みを行わなくても」自分から話しかけるようになったことがわかる。

○文章でのやりとりの経験を増やすことよっての文章の量・質の変化について

・作業日誌の変化

6月

10月

生徒より反省・感想

さきょうがいたのしかったです
(はさみさきょう)

生徒より反省・感想

作業がいたのしかったです。11人でしんぶんを
きるのがたのしかったです。

生徒より反省・感想

さきょうがいたのしかったです
(かんはんつくり)

生徒より反省・感想

作業がいたのしかったです。みんなときょうか
してソーチこうかんするの良かったのしかったです。

- ・少しだけ文章が増えている
- ・漢字で書けるようになってきている。
- ・質が高くなったとは言えないが、文章を書くことに楽しさを感じることができるようになっているのではないかな。

・卒業の手紙

・卒業を前にして、家族に手紙を書いた。これまでにない文章量で、全て自分の力で書くことができた。

これが実践によるものであるとは言えないが、「自分の気持ちを伝えることの大切さ」「文章で伝える喜び」「相手の気持ち」について取り組んできたことの成果であれば嬉しく思う。

